

問題 その4 平安時代のお皿のふた。なにやら文字が。
これなんだ？
次の二つの中からえらんでね！



1. 「川津さん」っていう、持ち主の名前
それだれ？

2. 船着き場（ふなつきば）のこと

「津」がつく地名はあちこちにあるねえ。

ヒント 宿宮前（しゅくみやまえ）遺跡から出土しました。
ん？どこかで聞いたことのある名前だ・・・。

1. 船着き場（ふなつきば）のこと

奈良時代から平安時代のはじめころまで、墨（すみ）で文字が書かれた土器がみつかる場合がけっこうあるんだ。そういう土器を「墨書土器（ぼくしょどき）」っていうんだけど、個人の名前が書かれることはほとんどなくて、その土器の使われ方や使われる場所に関係することが書かれていることが多いんだよ。この場合は、川にある「津」のことだね。だから・・・

ピンポン、ピンポン、ピンポーン！！！！

せいかい！よくわかったね✨✨✨✨

正解は、船着き場（ふなつきば）のこと。川津っていうくらいだから、川にある船着き場なんだね。川にある船着き場、っていうと、①川のこちら側とあちら側（対岸・たいがん）との間をわたる船の発着場所の場合と、②川の上流と下流、さらには河口から海へとつらなる「水の道」をとおる船の発着場所の場合が考えられるね。①の場合は、「渡し場」っていうことばに言い換えられるよ。②の場合は、「みなと」っていうことばがぴったりだね。

この文字が書かれたうつわは、平安時代のはじめのころのもの（9世紀中ごろ～後半ごろ）。その頃の「津」ということばの使い方から考えると、①よりも、②の可能性の方が高いんだ。

くわしくは、「かいせつ」を見てね！

※桜区・宿宮前遺跡（しゅくみやまえいせき）出土。平安時代。